

ハスモンヨトウ、オオタバコガの発生が多いため

早期発見、早期防除に努めましょう！

ハスモンヨトウとオオタバコガのフェロモントラップによる総誘殺数（7月第4半旬まで）は、ハスモンヨトウでは県内10地点の内7地点、オオタバコガでは、県内7地点の内6地点で平年より多い状況です。

気象庁の1か月予報によると（7月24日発表）、今後1か月の平均気温は平年より高い見込みです。今後も両種の増殖や活動に好適な条件が続くと予想され、発生の増加が懸念されます。

ハスモンヨトウとオオタバコガは、幼虫が大豆、野菜類（いちご、なす、トマト等）、花き類など幅広い農作物を食害する重要な害虫です。ほ場内の発生状況をこまめに確認し、早期発見、早期防除に努めましょう。

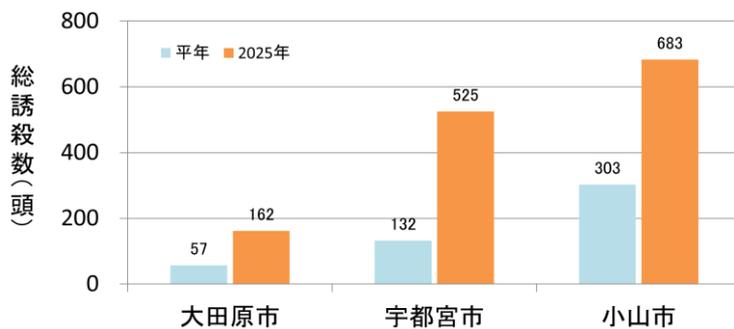


図1 ハスモンヨトウの総誘殺数※（6月第1半旬～7月第4半旬）の平年との比較

※ 宇都宮市のみ4月第1半旬～7月第4半旬の総誘殺数。平年は、過去10年の平均値。

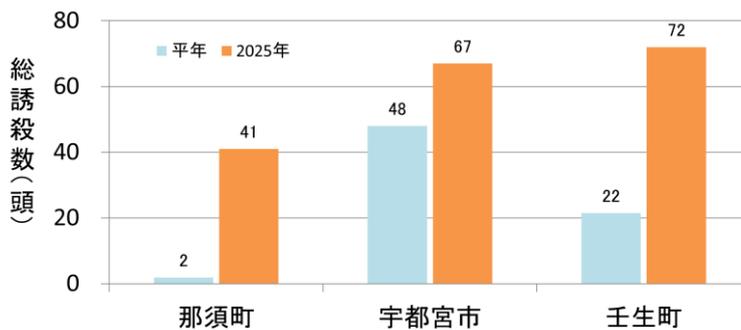


図2 オオタバコガの総誘殺数（6月第1半旬～7月第4半旬）の平年との比較

※ 宇都宮市のみ4月第1半旬～7月第4半旬の総誘殺数。平年は、過去10年（壬生町は8年）の平均値。

2 防除対策

- ほ場内外の除草の徹底（雑草は生息場所となるため）。
- 施設栽培では、開口部に防虫ネットを設置。黄色灯や緑色灯の夜間点灯も被害抑制に有効。
- 被害の早期発見（幼虫の食害痕や虫糞を目安にほ場をよく観察する）。
- ほ場内からの除去、捕殺（ハスモンヨトウの卵塊や分散前の幼虫、オオタバコガの被害果実等は見つけ次第速やかに除去、老齢幼虫は捕殺）。
- 発生が確認された場合には、「[栃木県農作物等病害虫雑草防除指針](#)」を参考に、農薬登録情報をよく確認して防除。

3 注意点

- (1) 幼虫の齢期が進むと、ハスモンヨトウでは薬剤が効きにくくなり、オオタバコガでは茎や果実の内部に潜り薬剤がかかりにくくなるため、**若齢期の防除を徹底する**。
- (2) 薬剤感受性の低下を防ぐため、**IRACコードの異なる薬剤のローテーション散布の実施**する。
- (3) オオタバコガでは、果実や花芽等の組織内部に食入した幼虫が多い場合は、**浸透性の高い薬剤を散布するか、浸透性を高める機能性展着剤を利用**する。また、摘芯や摘蕾及び摘果等により生じた残さに寄生している可能性があるため、残さはビニル等へ入れ、ほ場外に持ち出し、**発生源にならないよう適切に処分**する。
- (4) いちごではB T剤の防除効果が劣る場合があるため注意する。



写真1 ハスモンヨトウの卵塊



写真2 ハスモンヨトウの分散前の幼虫



写真3 ハスモンヨトウの幼虫



写真4 オオタバコガの卵



写真5 オオタバコガの幼虫

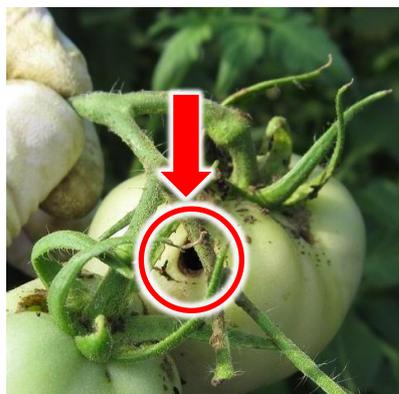


写真6 オオタバコガによるトマトへの食入

詳細は、防除課 (Tel.028-665-1244) までお問合せ下さい。
病虫害情報発表のお知らせは「[農業総合研究センターホームページ](#)」、
「[栃木県農政部 X](#)」でご覧いただけます。



【センターHP】



農作業中の熱中症に注意しましょう

- ・こまめな休憩、水分・塩分補給を行いましょ
- ・単独作業は避け、一人作業の場合は携帯電話を持ちましょ
- ・体調不良を感じたら、すぐに作業を中断し、涼しいところで休みましょ



～栃木県からのお知らせです～

6月～8月は、「**栃木県農薬危害防止運動**」の実施期間です。



- ① 安全作業の第一歩！ 農薬散布時の身支度は万全に！
- ② いつものチェック！ 農薬使用の際は、ラベルをよく読み正しく使いましょ！
- ③ 農薬散布のその前に！ 風量や風向きに注意して、飛散防止に努めましょ！
- ④ 周辺への配慮！ 住宅地等でやむを得ず農薬を使用する際は十分に配慮しましょ！
- ⑤ 農薬散布のその後に！ 防除器具の洗浄も欠かさずに行いましょ！